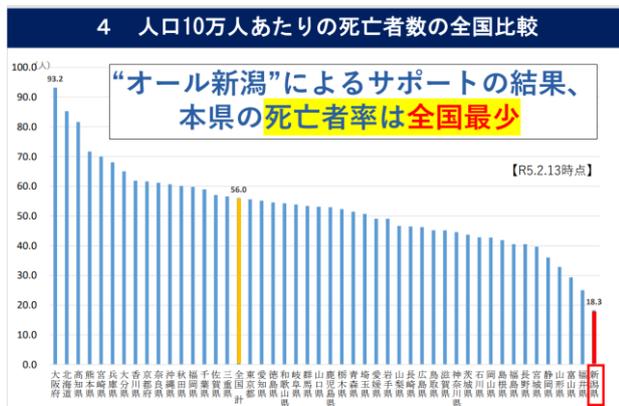


ロシアがウクライナに侵攻して1年が過ぎましたが、終戦のめどは全く立っていません。早く平和な社会に戻ることを期待します。一方、新型コロナウイルス感染症が日本で確認されてから丸三年になりました。こちら“終息”には至りませんが、5月8日以降感染症法上の位置付けが2類から5類相当に変わることにより徐々に“収束”するものと思います。良いことかは別にして、徐々に検査もしなくなり、普通の風邪として取り扱われるようになることでしょう。



新潟県の発表では、新型コロナウイルス感染症の人口10万人あたりの死者数は全国で圧倒的に少ない(全国平均が10万人あたりの死者数が56.0人に対し新潟県は18.3人と33%)ことが示されました(上グラフ)。種々の要因はあると思いますが、医師偏在指数最下位(47位)の県で、また人口当たりのICU(集中治療室)数も最下位の県でありながら、こうした良い結果となっているのは、我々新潟県の医療関係者の努力のたまものであると信じています。

さて、先月号で、今年4月から、消化器外科に、現在新潟県立加茂病院に勤務されている竹石利之先生が当院に赴任されることを発表しましたが、内科・整形外科の常勤医師の交代はありません。来年度も引き続きよろしくお願いたします。

この度、私・宮島が、新潟市医師会の在宅医療講座で、医療関係者向けの講演を行うこととなりました(右上パンフ)。

新潟市医師会
第136回 在宅医療講座

3月10日(金) 2023年 午後7時15分から ※開場6時45分
(閉会:午後8時30分)

講演
- 地域で在宅医療に取り組む (豊栄病院在宅医療バックアップシステムについて) -

厚生連豊栄病院 病院長 宮島 透 先生

当院では、新潟市北区で開業医の先生から在宅医療を受けている患者さんが、病状が急変したときに、すぐに当院を受診し・入院できる“豊栄病院在宅医療バックアップシステム”を平成27年11月から構築し・運用を行っています。そうしたシステムの話講演する予定です。当院がかりつけ病院でない北区の患者さんも安心して在宅医療を受けられるように当院も頑張っていきたいと思っています。

自然・活力・安らぎにあふれるまち 一住みたくなるまち 北区

北区役所 だより 令和5年(2023年) 2月19日号 Vol.381

支えあいのしくみづくり ~できることから始めませんか?~
誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指し、支えあいのしくみづくりが広がっています。そのしくみや取り組み事例を紹介します。

支えあいのしくみづくり会議・推進員ってなに?
支えあいのしくみづくり会議では、地域での課題や困りごとを把握し、足りない支援や対応について話し合います。支えあいのしくみづくり推進員と会議メンバーが協力しながら不足するサービスや支援を創出するお手伝いをします。

また、この講演の中で、北区の“支えあいのしくみづくり”の事も取り上げる予定です。上写真は2月19日付けの北区役所だよりですが、当院も“しくみづくり会議”のメンバーでMSWさんが年2回の会議に出席しています。この会議は、地域での課題や困りごとを把握して、解消する方法を検討するものです。病院は、行政などとともに、医療を中心とした持てる能力を一緒になって活用し、住民の皆様が少しでも暮らしやすい地域にできるようにしたいと思います。

発行責任者・文責:豊栄病院病院長 宮島 透